

**製品名: アクチン- $\alpha/\gamma$  ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab06551**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	45kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ACTC1
別名	ACTC1; ACTC; Actin; alpha cardiac muscle 1; Alpha-cardiac actin; ACTG1; ACTB; ACTG; Actin, cytoplasmic 2; Gamma-actin; ACTG2; ACTA3; ACTL3; ACTSG; Actin, gamma-enteric smooth muscle; Alpha-actin-3; Gamma-2-actin; Smooth muscle gamma-actin;
遺伝子 ID	58/70/71/72
SwissProt ID	P68032/P63261/P63267/P68133
免疫原	抗血清はヒトアクチン由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 21-70

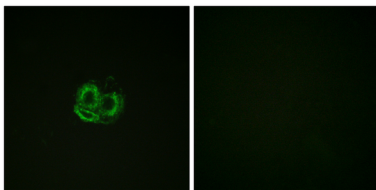
**背景**

アクチンは高度に保存されたタンパク質であり、様々な細胞運動に関与しています。球状アクチン（Gアクチン）の重合により、二本鎖らせん構造のフィラメント（Fアクチン）が形成されます。各アクチンは4本のアクチンと結合することができます。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ の3つの主要なアクチンアイソフォームからなるアクチンファミリーに属します。 $\alpha$ アクチンは筋組織に存在し、収縮装置の主要構成要素です。この遺伝子の欠陥は、特発性拡張型心筋症（IDC）および家族性肥大型心筋症（FHC）と関連付けられています。[RefSeq 提供、2008年7月]、疾患：ACTC1の欠陥は、拡張型心筋症 1R（CMD1R）の原因です[MIM:102540]。拡張型心筋症は、心室拡張と収縮機能障害を特徴とする疾患であり、うっ血性心不全および不整脈を引き起こします。患者は早期死亡のリスクがあります。、疾患：ACTC1 遺伝子の欠陥は、家族性肥大型心筋症 11 型（CMH11）[MIM:612098]の原因です。家族性肥大型心筋症は、心室肥大を特徴とする遺伝性心疾患であり、通常は非対称性で、しばしば心室中隔が侵されます。症状には、呼吸困難、失神、虚脱、動悸、胸痛などがあります。これらの症状は運動によって容易に誘発される可能性があります。この疾患は、良性から悪性まで、家族内および家族間で多様性があり、心不全や突然死のリスクが高い。、機能：アクチンは高度に保存されたタンパク質であり、様々な細胞運動に関与し、あらゆる真核細胞に普遍的に発現している。、その他：脊椎動物では、 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ の3つの主要なアクチンアイソフォームのグループが同定されている。 $\alpha$ アクチンは筋組織に存在し、収縮装置の主要構成要素である。 $\beta$ アクチンと $\gamma$ アクチンは、細胞骨格の構成要素として、また細胞内運動のメディエーターとして、ほとんどの細胞種で共存している。、類似性：アクチンファミリーに属する。、サブユニット：球状アクチン（Gアクチン）の重合により、二本鎖らせん構造のフィラメント（Fアクチン）が形成される。各アクチンは4つのアクチンと結合することができる。、

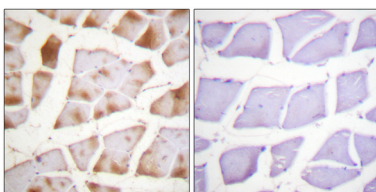
## 研究分野

心筋収縮;肥大型心筋症 (HCM);拡張型心筋症;

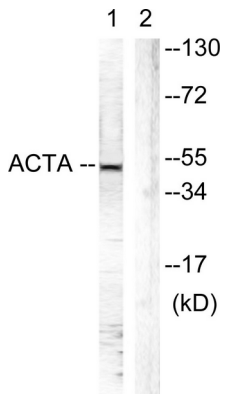
## 画像データ



アクチンパン抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



アクチンパン抗体を用いたパラフィン包埋ヒト骨格筋組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



マウス脳ライセートの Actin-pan 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。